

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	年報新人文学(10)
発行日	2013-12-20

〔彙報〕

平成二十四年度 大学院文学研究科

◆学位論文題目一覧

博士學位論文

●博士學位論文（論文博士）

学位記番号	氏名	博士論文題目
博（文） 乙第5号	秋元 裕子	瀧口修造研究―「影像人間」の系譜

修士學位論文

●日本文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
大原 智明	夏目漱石の物語における（山） ―初期作品『二百十日』の分析―
楊 紅敏	日本語の感謝場面における感謝表現の研究 ―使用実態と日本語教育への示唆―
李 涵明	中国人学習者の日本語授受動詞の 使用に関する考察
岩佐 有子	真言立川流の思想的意義
内田 幸子	「大宰帥大伴卿讃酒歌十三首」の研究
柴田 千裕	『現代の日本人と死の距離感について』
山本 侑奈	「いき」再考―とくに江戸社会との関連で―
齋藤千代子	遠藤周作の文学と信仰について ―「深い河」を中心に―

◆ 授業科目及び担当者

● 日本文化専攻博士(後期)課程

授業科目	担当教員
古代文学特殊研究Ⅰ	小野寺静子教授
古代文学特殊研究Ⅱ	小野寺静子教授
古代文学特殊研究Ⅲ	小野寺静子教授
比較文学特殊研究Ⅰ	テレンゲト・アイトル教授
比較文学特殊研究Ⅱ	テレンゲト・アイトル教授
比較文学特殊研究Ⅲ	テレンゲト・アイトル教授
日本古代中世史特殊研究Ⅰ	追塩千尋教授
日本古代中世史特殊研究Ⅱ	追塩千尋教授
日本古代中世史特殊研究Ⅲ	追塩千尋教授
仏教文化史論特殊研究Ⅰ(禪文化史論)	船岡 誠教授
仏教文化史論特殊研究Ⅱ(禪文化史論)	船岡 誠教授
仏教文化史論特殊研究Ⅲ(禪文化史論)	船岡 誠教授
近現代史特殊研究Ⅰ	郡司 淳教授
近現代史特殊研究Ⅱ	郡司 淳教授
近現代史特殊研究Ⅲ	郡司 淳教授

● 英米文化専攻博士(後期)課程

授業科目	担当教員
英米社会文化特殊研究Ⅰ	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊研究Ⅱ	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊研究Ⅲ	岩崎まさみ教授
欧米社会文化特殊研究Ⅰ	濱 忠雄教授
欧米社会文化特殊研究Ⅱ	濱 忠雄教授
欧米社会文化特殊研究Ⅲ	濱 忠雄教授
英米思想文化特殊研究Ⅰ	上杉 忍教授
英米思想文化特殊研究Ⅱ	上杉 忍教授
英米思想文化特殊研究Ⅲ	上杉 忍教授
欧米思想文化特殊研究Ⅰ	安酸敏眞教授
欧米思想文化特殊研究Ⅱ	安酸敏眞教授
欧米思想文化特殊研究Ⅲ	安酸敏眞教授

● 日本文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
日本文学特殊講義Ⅰ	小野寺静子教授
日本文学特殊講義演習ⅠA	小野寺静子教授
日本文学特殊講義演習ⅠB	小野寺静子教授
日本文学特殊講義Ⅱ	田中 綾准教授
日本文学特殊講義演習ⅡA	田中 綾准教授
日本文学特殊講義演習ⅡB	田中 綾准教授
日本文学特殊講義Ⅳ	中村三春講師
比較文学特殊講義Ⅰ	テレングト・アイトル教授
比較文学特殊講義演習ⅠA	テレングト・アイトル教授
比較文学特殊講義演習ⅠB	テレングト・アイトル教授
比較文学特殊講義Ⅱ	大谷通順教授
比較文学特殊講義演習ⅡA	大谷通順教授
比較文学特殊講義演習ⅡB	大谷通順教授
表象文化論特殊講義	大石和久教授
表象文化論特殊講義演習A	大石和久教授
表象文化論特殊講義演習B	大石和久教授
日本文語文化特殊講義Ⅰ	中川かず子教授
日本文語文化特殊講義演習ⅠA	中川かず子教授
日本文語文化特殊講義演習ⅠB	中川かず子教授
日本文語文化特殊講義Ⅱ	菅 泰雄教授
日本文語文化特殊講義Ⅲ	徳永良次教授

授業科目	担当教員
日本文語文化特殊講義演習ⅢA	徳永良次教授
日本文語文化特殊講義演習ⅢB	徳永良次教授
日本文語文化特殊講義Ⅳ	門脇誠一講師
日本歴史文化特殊講義Ⅰ	追塩千尋教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠA	追塩千尋教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅠB	追塩千尋教授
日本歴史文化特殊講義Ⅱ	船岡 誠教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅡA	船岡 誠教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅡB	船岡 誠教授
日本歴史文化特殊講義Ⅲ	郡司 淳教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢA	郡司 淳教授
日本歴史文化特殊講義演習ⅢB	郡司 淳教授
北方文化論特殊講義Ⅰ	中村英重講師
アイヌ文化論特殊講義	手塚 薫教授
アイヌ文化論特殊講義A	手塚 薫教授
アイヌ文化論特殊講義B	手塚 薫教授
アジア文化論特殊講義Ⅰ	須田一弘教授
アジア文化論特殊講義演習ⅠA	須田一弘教授
アジア文化論特殊講義演習ⅠB	須田一弘教授
アジア文化論特殊講義Ⅱ	李俊 鎬講師

●英米文化専攻修士課程

授業科目	担当教員
英米社会文化特殊講義 I	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊講義 I A 演習	岩崎まさみ教授
英米社会文化特殊講義 I B 演習	岩崎まさみ教授
英米歴史文化特殊講義 I	常見信代教授
英米歴史文化特殊講義 I A 演習	常見信代教授
英米歴史文化特殊講義 I B 演習	常見信代教授
英米歴史文化特殊講義 II	上杉 忍教授
英米歴史文化特殊講義 II A 演習	上杉 忍教授
英米歴史文化特殊講義 II B 演習	上杉 忍教授
欧米歴史文化特殊講義 I	濱 忠雄教授
欧米歴史文化特殊講義 I A 演習	濱 忠雄教授
欧米歴史文化特殊講義 I B 演習	濱 忠雄教授
欧米歴史文化特殊講義 II	太田敬子 講師
英米思想文化特殊講義 I	柴田 崇准教授
英米思想文化特殊講義 II	川上武志教授
英米思想文化特殊講義 II A 演習	川上武志教授
英米思想文化特殊講義 II B 演習	川上武志教授
英米思想文化特殊講義 III	瀬名波栄潤 講師
英米言語文化特殊講義 I	上野誠治 教授
英米言語文化特殊講義 II	米坂スザンヌ 教授
英米言語文化特殊講義 II A 演習	米坂スザンヌ 教授

授業科目	担当教員
英米言語文化特殊講義 II B 演習	米坂スザンヌ 教授
欧米思想文化特殊講義 I	安酸敏真 教授
欧米思想文化特殊講義 I A 演習	安酸敏真 教授
欧米思想文化特殊講義 I B 演習	安酸敏真 教授
欧米思想文化特殊講義 II	佐藤貴史 准教授

文学研究科教育・研究発表活動

◎二〇一三年度第一回「全体ゼミ」(修士課程二年・中間報告)―七月六日(土)(13:30～15:45)、本学D41番教室にて開催された。修士課程二年に在学する4名の大学院生が、次のような題目で、修士論文の構想とその一部を発表した(参加者約40人)。

山田 航「初期木下利玄」

佐藤公美「ACFTFL・OPIのテストとしての可能性―テスト間のインタビュ―内容の差からの考察―」

大島直樹「ブラウン判決の冷戦的解釈―アール・ウォーレンの一貫性を参考に―」

高橋 昭「中神宮寺の建立とその思想―7世紀から9世紀を中心として―」

◎二〇一三年度第二回「全体ゼミ」(修士課程一年・中間報告)―十一月九日(土)(10:00～12:45)、本学D41番教室にて開催された。修士課程一年に在学する4名の大学院生が、次のような題目で、修士論文の構想を発表した(参加者約40人)。

清水敏弘「現代本格ミステリ序論」

竹田麗華「知識はいかに保存され、伝えられてきたのか―知識の制度化の過去・現在・未来―」

堺 達也「仮定法現在節の中の副詞」

小川ゆう紀「韓国人学習者の日本語教師に対するピリ

―フ調査―中・上級学習者を対象に」

山森未央「中上級日本語学習者の学習ストラテジーを

探る―よい学習者 (Good Language Learner) との関連において―」

●『年報 新人文学』第10号をお届けします。前号は掲載論文の本数が少なく、編集委員のお詫びとともに編集後記を締めくくりました。その反省を胸に、本年度は早い時期から投稿募集を開始し、機会をとらえては各位にご投稿をお願いしてまいりました。その甲斐あつてか、先生方の積極的な協力をお賜った結果、こうして貴重な論考が集まりました。執筆と査読にあたられた方々に心よりお礼を申しあげます。

●その一方で、残念ながら「原稿落ち」となるケースがあつたことも告白しなければなりません。しかしこれも審査制度を堅持する本誌の運命と考えるほかないだろうと思います。不本意な結果となつた投稿者には、みずから鍛える場として引きつづき投稿という形で挑戦を続けられることを願っています。

●上杉忍氏にはご退職の前に「巻頭言」をご執筆いただき、加えて論文までご投稿いただきました。アメリカ黒人研究に研究者人生の大半を注がれ、その集大成ともいえる『アメリカ黒人の歴史——奴隷貿易からオバマ大統領まで』（中公新書）を出版されたのは今年三月のこと。氏はそのご著書に書ききれなかつたことを論文にまとめられ、それを後輩研究者への励ましとして本号に託してくださいました。若い研究者がめざす目標として、今後とも活躍されることを期待しています。

●大学院研究科の同僚としては、二〇〇八年度から四年間研究科長を務められた濱忠雄氏も、同じく今年度かぎりで定年退職されます。氏は日本を代表するハイチ革命研究者で、本誌でも「浜忠雄」のお名前が創刊号より活躍されています。全体ゼミで院生たちの発表にひとつひとつ温情あふれるコメントを加えられ、さらに研鑽を積むように激励されていたお姿が忘れられません。どうぞこれからもわたしたちをご指導、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

●昨年と同様、今年もユネスコ無形文化遺産保護条約の政府間会議に出席しています。開催地はアゼルバイジャンの首都バクーです。今年日本が申請した「WASHOKU」が無形文化遺産の代表リストに登録されることに決まり、文化庁長官を始め、日本政府関係者は歓喜に沸いています。元旦には多くの日本人が富士山を眺めながら伝統のおせち料理をいただくことと思います。

(岩崎まさみ・大谷通順)

『年報 新人文文学』投稿規定

- 一、『年報 新人文文学』は、人文文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。
- 二、投稿原稿の著者は、当人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。
- 三、原稿は、原則、日本語とし、縦書き、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。
 - ①原著論文で未発表のもの、四〇〇字詰原稿用紙五〇頁程度。
 - ②研究ノート・資料・報告など、四〇〇字詰原稿用紙三〇頁程度。
 - ③書評など、四〇〇字詰原稿用紙一〇頁程度。
 - ④その他、編集委員会が必要と認めたもの。
- 四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報新人文文学』編集委員会